

2026年1月15日

アイリスグループ 2025年度決算速報

■2025年度通期決算予想（2025年12月期／速報値）

アイリスグループ (32社単体売上合算)	売上高	7,949 億円	前年比 102.4%
	経常利益	454 億円	前年比 119.5%
	経常利益率	5.7%	-
アイリスオーヤマ (単体)	売上高	2,458 億円	前年比 106.1%
	経常利益	200 億円	前年比 156.3%
	経常利益率	8.1%	-

■決算概要

アイリスグループは、2021年度に新型コロナウイルス感染症の流行に伴う家電事業・マスク事業の増収に加え、新規参入した飲料事業・ロボティクス事業の成長により過去最高売上を達成しました。その後は市況環境の影響や原材料価格の高騰などの影響を受け、2023年度まで2年連続で減収減益となりましたが、2025年度は食品事業やロボティクス事業のほか、米国の相互関税措置に伴う海外グループなどへの積極投資や、戦略的な新製品開発に取り組んだ結果、減価償却費は拡大したものの、2024年度から2年連続で増収増益となり、業績改善することができました。

BtoC事業では、設備投資を重点的に進めてきた食品事業が前年比140%の590億円へ伸長し、売上をけん引しました。社会問題となった米不足を背景に、精米の代替食としてパックごはんが好調に推移したことにより、政府備蓄米の随意契約を締結し、いち早く販売を開始することで事業の認知拡大につながりました。さらに、緑茶飲料市場への新規参入や、米国やアジアを中心とした輸出も、食品事業の成長に寄与しました。今後も積極的な投資を行い、2027年には舞鶴工場（京都府）と岡山瀬戸内工場（岡山県）、2028年には御殿場物流センター（静岡県）を竣工予定です。2026年度は「顧客接点の強化」を掲げ、食品・日用消耗品を中心に、商品のラインアップ拡充と輸出を戦略的に実行していきます。食品事業では、パックごはんや飲料を中心に関連産業へ輸出を引き続き強化し、2030年に売上高1,000億円、内輸出額100億円を目指します。ヘルスケア事業では、新規参入した赤ちゃん用品のラインアップ拡充や、ASEAN等への海外輸出を行うことで、2030年に売上高400億円を目指します。

また、ロボティクス事業では、労働力不足を背景にサービスロボットの導入が加速し、累計導入社数は7,000社、累計出荷台数は22,000台を突破※しました。2026年度は、当社として初めてソフトウェアとハードウェアを完全内製し、フィジカルAIを実現したDX清掃ロボット「JILBY」を発売予定です。本製品を以って当社は国内ロボットメーカーとして本格始動し、清掃にとどまらない「労働力不足」の課題解決を目指します。

省エネソリューション事業では、蛍光灯2027年問題によるLED照明の需要拡大に加え、住宅設備機器事業の製品競争力の向上を背景に採用機会が増加し、2025年度の収益成長を支えました。引き続き、LED照明の導入が遅れている業界へのアプローチを行い、LED照明の普及率100%の早期達成に貢献します。

2026年度はグローバル事業における1,650万ドル超の設備体制の強化と、海外拠点の基盤強化を決定しました。多角化する事業展開に対し、国内外の地盤強化と高度人材の確保のための採用強化を図り、アイリスグループ売上高8,640億円（前年比108.7%）、アイリスオーヤマ単体売上高2,727億円（前年比110.9%）を目指します。

※：2020年1月～2025年12月までのサービスロボットの累計（アイリス電工株式会社での販売分、及びトライアルを含む）